

事務事業名	史跡整備・管理事業	事業期間	～	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	文化財課	文化財係	連絡先	76-2386	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
計	予 算 事 業 名	史跡整備・管理費				会計コード	01	款	10	項	05	目	11	事業
画	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	公有地化を図った国史跡駒形遺跡27,020㎡、国史跡上之段遺跡23,531㎡の草刈り作業を実施、史跡の保存に努め、後世に残す。 整備された中ッ原縄文公園の清掃管理を行うほか、日常的な施設の保守、冬場の養生作業を行う。 また、市で管理する王経塚古墳と永明寺山古墳、中ッ原縄文公園の草刈りを行う。												
P 的 目 的	現状と背景 (どうして)	国史跡公有地の管理を行わないと荒廃化が進行し、周辺景観に悪影響を与える。国宝「土偶」出土地保存公園の保護管理は、文化財保護の観点からも重要である。												
	対 象	受 益 者 (誰のために)	公園利用者											
	意 図 (どんな状態にしたいか)	対 象 (直接働きかける)	管理受注者											
	手 段・方 法 (どうやって)	意 図	公有地を整然とした状態で維持したい。 常に整備、管理されたきれいな史跡公園を目指す。											
A N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
	1	草刈り実施面積	草刈り実施面積	㎡	草刈り実施面積/草刈り必要面積×100	100								
	2	公園清掃日数	清掃日数	日	9ヶ月×4週×2日	72								
	3													
成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
1	公園水道利用数	水道利用量	㎡	水道利用量	27									
2	詳細分布調査	調査率	%	詳細分布調査面積/国史跡指定面積	90									

実 施 状 況 D O 備 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	3,011,272	3,078,000				
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	3,011,272	3,078,000				
	活動指標	草刈り実施面積	目標	100	100			
			実績	100				
			達成率	100.00	—	—	—	—
		清掃日数	目標	72	72			
			実績	72				
			達成率	100.00	—	—	—	—
	—	目標	—					
実績		—						
達成率		—	—	—	—	—		
成果指標	水道利用量	目標	23	27				
		実績	11					
		達成率	48.89	—	—	—	—	
	調査率	目標	66	90				
		実績	49					
		達成率	74.24	—	—	—	—	
備 考	指標：苦情のない史跡管理を、水道利用量に変更 2019年							

事務事業名	史跡整備・管理事業	事業期間	~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	文化財課	文化財係	連絡先	76-2386	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	史跡の草刈り、中っ原縄文公園の清掃及び露出展示修復等を委託し、適正に実施され、史跡等の価値を損なうことなく適切に維持管理されている。水道利用量の減少はトイレ利用者が少なかったためと推測する。調査率は小学校の縄文・生活科等で調査が行われ、微増ではあるが着実に高くなっている。				
	総合評価	国史跡「上之段遺跡」、「駒形遺跡」、中っ原縄文公園は、地域住民にとってかけがえのない「宝」であり、適切な維持管理がなされることで、文化財保護の意識の高揚が図れている。				
	課題	12月上旬から4月上旬まで、中っ原縄文公園の露出展示を冬期閉鎖している。苦情はないが、問い合わせはある。冬期も見学できるような露出展示に代わる効果的な方法があるか検討する。				
改革・改善の方向性(ACIT)の内容及び内容	<p>休廃止</p> <p>皆減</p> <p>史跡の草刈りは、上之段遺跡、駒形遺跡ともに年4回実施しているが、最低回数で実施しているため、コストの削減は難しい。中っ原縄文公園の露出展示は、閉園から17年が経過し、劣化が進んでいる。今年度の修繕工事をはじめ、これまで修復を重ね、何とか維持できている。今後、軽微な修繕を続け、露出展示を維持することとなったが、遺構を型取りし、盛土した遺構の上に再現する等の異なる展示方法の検討も考えたい。事務事業の効率化を図るため、平成31年度に「縄文の里史跡整備活用事業」と当事業を統合する。</p>					

作成担当者	小林健治					
最終評価責任者	両角勝元					
最終評価年月日	元. 5. 17					

事務事業名	縄文の里史跡整備活用事業	事業期間	～	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	文化財係	連絡先	76-2386	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	縄文の里史跡整備活用事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	11	事業	05
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 茅野市は「縄文プロジェクト」を策定し、縄文をいかしたまちづくりをすすめている。この中核として、国特別史跡「尖石遺跡」、国史跡「上之段遺跡」、国史跡「駒形遺跡」の保存があり、中ッ原縄文公園や棚畑遺跡等を含め、縄文の里として整備活用を推進していく。平成30年度は、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」との連携、今後の進め方など文化庁と協議を進めていく。

現状と背景
 (どうして)
 『縄文の里史跡整備・活用基本構想』の具現化のためには、史跡の現状や今後の進め方などを文化庁と共有しなければならない。

目的
 受益者 (誰のために)
 史跡周辺地域住民、史跡を訪れる市民や、文化財保護活用に取り組む全国民
 対象 (直接働きかける)
 史跡周辺地域住民、史跡を訪れる市民や、文化財保護活用に取り組む全国民
 意図 (どんな状態にしたいか)
 『縄文の里史跡整備・活用基本計画』に基づき、縄文史跡・歴史的な遺産をまちづくり・人づくりにいかす。

手段・方法
 (どうやって)
 ①『縄文の里史跡整備・活用基本計画』(2018)を文化庁に提示し、計画の位置づけ、概要、各史跡の整備方針等を説明する。この上で、史跡の現状や今後の進め方などコンセンサスを取り付けていく。
 ②日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」と連携し、付帯事業を推進していく。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	必要に応じた文化庁との協議	協議率	%	協議実施数/文化庁との必要協議数
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	文化庁とのコンセンサスの達成	コンセンサス達成率	%	コンセンサス達成数/コンセンサス目標項目数×100

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	85,320	3,078,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	85,320	3,078,000			
活動指標	協議率	目標	%	100	100		
		実績	%	100			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	コンセンサス達成率	目標	%	100	100		
		実績	%	30			
		達成率	%	30.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-

備考

事務事業名	縄文の里史跡整備活用事業	事業期間	~	年度		係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課		文化財係		連絡先	76-2386

事業評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業後評価 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	文部科学技官に、「縄文の里史跡整備活用基本計画」を説明し、指導を受けた。史跡整備された特別史跡尖石遺跡を中心に、国史跡上之段遺跡・駒形遺跡の保存・管理、整備・活用の方法や方向性の説明に終始してしまい、3割程度のコンセンサスを得るに止まった。				
	総合評価	考古館係が進めている、特別史跡「尖石石器時代遺跡」整備基本計画(案)に文部科学技官の指導を反映することができた。				
	課題	文化庁協議が国指定史跡ごと行になわれており、「縄文の里」として関連づけた整備・活用の方法や方向性を示すことができていない。「縄文の里史跡整備活用基本計画」に基づく、「面」としての整備・活用方法等の提示が課題である。				
改革・改善の方向性 (ACT)	翌年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大			
改革・改善の方向性の内容	成果 コスト	文化財保護法が一部改正され、「文化財保存活用地域計画」という「縄文の里史跡整備活用基本計画」に類似する計画が新設された。計画の内容や補助対象事業等について文化庁に問い合わせ、必要であれば協議を行なう。				

作成担当者	小林健治				
最終評価責任者	両角勝元				
最終評価年月日	元. 5. 17				